



カレッジ到着直後の記念写真



ルームメイトと33年ぶりの同窓会(左端が筆者)

みたいという気持ちが強くて、怖いもの知らずであった。駅から駅、空港から空港までは一人旅だが、友人が必ず駅や空港で出迎えてくれたので、危険を感じたことはなかった。友人宅は、お国柄や各家庭の教育方針の違いもあり、それぞれの家庭の雰囲気の違いに戸惑ったり感動したり、初めて味わうヨーロッパの家庭料理に舌鼓を打ったりもした。それらの経験は、間違いなくその後の私の人生の原動力になった。知らない世界に物おじせず飛び込み友人をつくる能力、どこに行っても「なんとかなるさ」、つらいことがあっても「世界には自分より苦しい環境に耐えている人がいる。自分の個人的な悩みなどこっぴげ

なもの」と思える不思議な力が、自然に身に付いたようだ。

その御恩返しになればと、AC卒業生が来日した際には、神戸の自宅に招待した。私が不在でも、私の両親を慕って何度も泊まりに来た友人もいた。今後、私の息子たちが彼らの国を訪ねたら当然のように歓迎してくれるだろう。UWCファミリー一人ひとりの持つこうした小さな体験の積み重ねが、UWCの目指す国際理解を実現させているのだと思う。

異業種間でもネットワークは健在

二〇代から三〇代は、外資系企業で勤務したため、UWCの経験を活かす機会が多かつ

たことは言うまでもない。しかし、実家の家業を継いで日本でホテル業を営んでいる現在もまた、UWCのネットワークが活かしている。三三年前、ACの卒業アルバムに雲仙観光ホテルの広告写真を掲載してもらったのだが、それを覚えていたカナダ人のピーターより、

「最近バンフ国立公園内のホテルを買収して知ったのだが、バンフと雲仙は姉妹国立公園だそう。スタッフの交換や国立公園の環境保全をテーマにした国際会議を企画するなど、何か一緒にできないか」というメールが届いた。また、スウェーデン人トーマスは再生可能エネルギーの専門家だが、彼からは「雲仙温泉の地熱を利用した発電を始めて、『原動力に頼らない村、雲仙』という切り口で村おこしをしてはどうか。地熱発電専門メーカーを紹介するから、モデルケースとして安価で導入できるし、余った電力を九州電力に売ることでも可能だ」とアドバイスされた。どちらの話も地元の政治にかかわる案件となるため、まだ実現には至っていないが、UWCのつながりはどの業種で仕事をしていても活かしている。

やはり私の一生の宝だと実感している。国際理解、世界平和という崇高な理念を掲げ、最初のUWCとして開校したACは、二〇一二年九月に創立五〇周年を迎えた。UWCの教育は世界各国で高く評価され、その数は現在一三校となったが、その一方で、残念ながら世界中の紛争は一向に無くなるならない。地球の将来を担う若者たちに、UWCファミリー同様「平和を望む心」が育まれることを願ってやまない。

UWCファミリーの一員となつて思うこと

堂島ビルディング雲仙観光ホテル取締役

橋本弥和

はしもと みわ

神戸女学院高等学部より一九七七年UWCアトランティック・カレッジ(英国)留学。上智大学法学部国際関係法学科卒業。スタンフォード大学政治学修士号取得後、JPMorgan、フォルクスワーゲン・アウディ日本を経て現職。

一九七七年九月、私は羽田空港より六人の男子奨学生と共にUWCアトランティック・カレッジ(以下AC)へ向かった。まず初めに、この場をお借りしてUWCに派遣してください。経団連会員企業の皆様、経団連スタッフの皆様深く御礼申しあげたい。

▼さまざまなかカルチャーショック

すでに廃止となったが、当時ACでは全員に毎朝六時半より早朝スイミングが課せられていた。地域の救助隊としての役割を担っていたので、まずは自分自身を心身共に鍛えよ、ということである。出身国により経験が異なるため、カレッジで与えられるさまざまな課題に、一人ひとりが異なる感じ方をすること

を、この時、目のあたりにした。インド人のローシヤンは、人前で足を出したことがないと嘆き、ノルウェー人のニーナは、今までビキニしか着たことがないのにワンピースの水着なのかと嘆いた。日本人の私は、さまざまな国から来た同級生のなかで、文化的にはちよど中ぐらゐの位置付けだろうと思った。ヨーロッパの男子には当時、兵役があったことも知った。自国ドイツや出身地ニュルンベルクの歴史の詳細を誇らしげに語るクラウスと比べて、ぬるま湯に浸かったような気楽な日本の女子高校生であった自分を恥じたことを鮮明に記憶している。日本のことをもっと勉強して、外国人に日本の説明がしっかりとできる日本人になりたい、と強く思った。

●ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会

UWCは、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じてグローバル人材を養成する国際的な民間教育機関(本部 ロンドン)。UWC日本協会は、UWC活動を日本で普及させるため、経団連の全面的支援のもとに設立され、UWCに派遣する高校生の選考や奨学金の支給等を行っている。奨学金は、UWCの趣旨に賛同する経団連主要会員企業等からの寄附金を原資としており、企業の社会貢献活動として、UWC日本協会へのご入会を検討いただきたくお願い申しあげる。

クラスは徴兵制のない日本がうらやましいと言っていた。二年後にドイツに戻ったら、必ずや「良心テスト」を受け、兵役を免除してもらおうと言っていた。戦争をなくそうという理念のもとに創立されたACは、彼にとつては理想郷であるのに、卒業後は愛する母国の事情で、他国の人々と敵対するための訓練を受けねばならない。そうした現実直面する友人に、かける言葉はなかった。

▼小さな個人的体験の積み重ね

AC在学中の長い休みには、日本に帰国せずヨロップパ中の友人宅を平均三日間ずつ泊まり歩いた。母親となった今、女子高校生がたった一人で海外を旅行したことを思い返すとぞっとするが、当時は新しい世界を見て